植物介在療法学詳論 (2単位)

担当者氏名 浅野 房世

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

植物介在療法とは、単に患者が植物を育てる行為を呼ぶのではなく、患者が生きようとする姿勢を確保、もしくは維持するために、植物のあらゆる形態を活用することである。したがって、精神疾患・心理的障害、疾病を受容できない患者など、あらゆる患者が対象になるといっても過言ではない。本講義では、とくにその対象として、幼児・児童をあげ、被虐待や、発達障害のある対象者への具体的な植物介在療法をまなぶ

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

発達心理

虐待

園芸療法

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	ガイダンス		植物介在療法が適応できる障害を理解し、その介入の概要を学ぶ
2	発達心理と植物介在療法 (1)	フロイト論理の特徴、ユング理論	
3	発達心理と植物介在療法 (2)	エリクソン、ボールビーを理解する	
4	発達心理と植物介在療法 (3)	「人間の発達」を理解する	
5	小児の植物介在療法について (1)	小児医療現場に必要な理論	
6	小児の植物介在療法について (2)	発達心理を踏まえ、植物介在療法の意義問題点	
7	小児の植物介在療法について (3)	小児内科(悪性腫瘍)と植物介在療法プログラム	
8	小児における植物介在療法の実際(1)	プログラムの評価	
9	小児における植物介在療法の実際(2)	患児の内的変化をどうとらえるか	
10	小児における植物介在療法の実際(3)	身体障害児の植物介在療法の禁忌	
11	小児における植物介在療法の実際(4)	被虐待児への禁忌	
12	身体障害、虐待のケアの留意(1)	プログラムの発表	
13	身体障害、虐待のケアの留意(2)	問題点の焦点化	
14	身体障害、虐待のケアの留意(3)	総括	
15	総括	発表	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

関係発達論／鯨岡俊

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

発達心理、植物関係書籍

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

レポート

◆オフィスアワー

メールにて、確認後研究室訪問

◆その他受講上の注意事項

質問は、メールにて行う。必要があれば面談